

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
19・10・5(土)
南NEWS no 82

世界陸上 2019 DOHA 山西選手 20km競歩金メダル！！

2019年10月5日(土) 早朝

山西選手は高校2年の頃のあるできごとが忘れられないそうです。高校総体の地区予選で先輩が3位、自分は4位。直後に先輩は失格。繰り上げで全国高校総体に出場することになった山西選手。

しかし、「一緒に全国の表彰台」という目標ははかなく消えたのです。

先輩から届いたメールは「頑張ってきて」。思いを胸に歩き、結果は2位。先輩も喜んでくれますます競技に没頭したそうです。



「責任感が強くなり練習の集中力も増した」と顧問の船越康平先生。3年時には17歳以下で競う世界ユース選手権の1万メートル競歩で金メダルを獲得したのです。総体でも優勝しました。

競技への熱が高まったが、勉強を疎かにしませんでした。競歩に打ち込みながら、塾に行かずに学校が推奨するテキストで基本から、早朝に起き、寝るのは毎日夜の1時頃。食事をする時間も惜しいほど机に向かったのです。そして、難関の京大工学部物理工学科に現役合格しました。「競歩をやったことで一つのことにつき込むエネルギーの量を増やせるようになった」と恩師の言葉。

その山西利和選手が今朝、生中継された世界陸上2019 DOHA、20kmで見事優勝しました。

優勝の言葉に
「たくさんの皆さんのサポートのお陰で優勝できました」と言っていたのが素晴らしいなと思いました。

山西選手はきっと、
r e s p e c t ・ t h a n k s ・ c o n s i d e r a t i o n

の3つを大切にしている人だと想います。だからこそ、ひたむきに努力できるのだと想います。

南の子どもたちを観ていても、この3つを大切にしている、あるいはその子なりに身につけている子どもは、サッカーに打ち込み、伸びていると矢上は実感しています。話を聴くときも目が違います。サッカー仲間でも大切にしたいですね。

以上の文章は9月29日(日)付けの朝日新聞・朝刊の記事を引用しています。



午後練から

10月4日(金)の午後練は、冒頭に「今日の練習の1時間はキック・シュート練習、ドリブル・ターンを練習するよ。その後、30分はドボンをするよ」と言って練習を始めました。

キックの練習で、左足だけ練習させました。インステップのキャッチボールから始まって、グラウンドにボールを置いてのキック練習。次にデカゴールを出してドリブルシュート練習。

「左足のキックが上手になりたい人は左足のシュートだけで良いよ」と言いました。

給水時間の休みにも左足のシュート練習をしていたカイリ君はぐんぐん上達し、良いフォームで蹴れるようになりました。他にも、1年ユウキ君・3年ジン君・4年コウタ君・5年レオン君・6年シオン君も上手くなりました。素晴らしい左足のシュートの連発をするのは6年のソラさん・トウイ君です。午後練に来る子、全員が左を蹴れるようにしていきます。来ない子もそうしてください。お願いします。

即座の習得

10月4日(金)の午後練では、6年のワヘイ君が得意のWタッチ(右足インサイドでボールを真横に動かして、左足インサイドで直角に押し出す)ではなく、矢上が高校時代に得意としていたWタッチ(右足インサイドで1m程真横に動かして左足インサイドで斜め右前に動かす：高校3年の時、埼玉県の高体予選。ベスト4を懸けて全国高校3冠の強豪浦和南と対戦。1-1の延長前半、Wタッチを駆使して2アシストをして勝った思い出があります。みんなとの練習の前と練習後、自主練で身につけました)

この日の午後練で教えたのですが、トウイ君はドボンで早速Wタッチを駆使して相手をかかわっていました。ゴールデンエイジ、真に“即座の修得”です。

椅子の形で相手のギャップ(2人の相手がつくる間・門)をすり抜ける技にもチャレンジしているトウイ君を観て、ゲームストップをして、みんなを集め、トウイ君のWタッチ、イスの形でギャップを突破のプレイをデモして観てもらいました。

でも、足を引きずる私が一生懸命デモをしているのに、隣の子と話をしている子がいました。がっかりしました。ほとんどの子はしっかりと観ているのですが。モデルが悪いんだね！？

b y 南の安版万

